整理番号

D－2－3　　108

標 題 名

田圃害虫略説

著 者 名

発行者名

茨城県勧業課

発 行 年

明治１７年

製作年月

平成２８年６月

明治十七年八月刊行

田圃害蟲略說

全

茨城縣勸業課

印刷 三田印刷所

田圃害蟲略說

目次

○緒言

○甲翅類

金龜子　附圖

茶蛀蜥

○半翅類

蚜蟲

椿象　附圖

○鱗翅類

螟蛉　附圖

螟蟲　附圖

緒言

田圃に害蟲の生ずるは恰も人身に蚤虱の生ずるか若く畢竟其盡す可き所を盡さす之れを怠慢に付するに由らすんはあらさるなり農家或は此理を知らす是以て一朝害蟲の現出し來り其慘毒を逞ふするに至りて周章狼狽神に祈り佛に念〳〵甚きは金皷を鳴らし神輿を舁きて田畝を狂奔する等無智の擧動を演する者往〻之れあり豈に歎すへきの至りならすや

抑も害蟲は皆其母蟲ありて産生するものにして其發生は大抵毎年五六月の頃より始まり新葉の身體を刺傷〳〵其養液を吸奪〳〵之れを枯ら〳〵之れを卷縮〳〵而〳〵て七八月の候に至りて一小蛾に化生〳〵卵を葉莖に産み付け冬期に及ひては其殘稈若くは畝間の雜草に餘命を保ち又蟲により蛹となりて土中に潛伏〳〵春夏の候を待つものも有れは農家たるもの宜〳〵く眼を茲に注き冬期の耕耘は殊に念を入れて幾回も之れを施〳〵又被害田圃の刈藁殘莖等は必す之れを燒燼〳〵其餘毒を撲滅

せさる可らさるなり

然るに形の未た現れすして其眼に觸れさるや恬として之れを省せす其害の至るに至つて周章狼狽するは尚ほ身躰の汚垢を去らす家屋を清淨にせす蚤虱の跋扈跳梁するを憂ふるに異ならんや況や其形を顯はし害を爲すに當りても之れか撲滅を怠り之れか手段を施さすして叨りに天災に附し去るに至りては豈に悲まさるを得んや此一小册因に其大要を記するに過きすと雖とも希くは其概を得るに庶幾からん乎

○金龜子（こがねむし）　甲翅類

此蟲は四月より九月に至るの間に蕪菁蘿蔔其他葡萄大豆等に生じて其粗葉の背面に毎日卵子一個を放つ而して此卵子は凡そ七日乃至十日の間に孵化する者と～其蚴は粗葉の表皮内に在ること六日間にして生長～又地上に下りて蛹となり土中に在ること凡そ十四日なりとす故に其化生する一年間四五度に至るへし此蟲は甲翅狀を具へて麻痺せるが如くなりて冬寒を經過～翌春再び蘇生～以て種生の新葉を傷害す且其香を襲くこと極めて鋭く又風に逆ふて飛散し植物を傷害す其最も怖るへきは季候の順和なる時にあり而して大雨旱魃及び春季餘寒甚しき歳は反て蟲の勢力を挫屈すへし

之を驅除するには少量の水を桶盥等の器に盛り之を植物の下に置きて其植物を搖すときは蟲忽ち失脚して器中に落るか故に直に捕へて火中に投するなり或は鷄類を園内に放ちて前の如く搖かし落つる所の蟲を啄ましむるも可なり又夜間

所々に火を點し誘殺法を行ふを良とす右の法は輕便にして實効あるものとす其他數法あり左の如し

諸毋尼亞を含有せる肥料は此蟲の忌避すへきを以て宜しく之を施して植物の成長を助くへし○天氣好晴なる時烟煤或は生石灰を植物の上に撒布すへし又雨後に撒布するも可なり○蛹の地中に在る時は深く之を犁鋤すへし○刈蕘及び不熟の肥料は蟲の媒となるか故に宜しく注意して之を除くへし○雜草は蟲の隱窩となるか爲め種子の發芽に先ちて之を除くへし○稀薄なる鹹水を粗葉に灌げは蚜及び卵を殺すへし但し嫩葉を傷ふ無るへし○膠黏及瀝青等を塗抹せる木板を以て植物の上を施くへし○此蟲は白蕪菁を好むを以て之を各所に栽植して其食餌となし其聚る時網を以て捕ふへし

○茶蛸蜥

五六月の候茶樹に生ず其色黑きあり或は頭柑色にして背に黑點及ひ柑色の間道あり其兩側淡青色の間道あり腹部は悉く酥色にして背黑點の間道より白毛を生するものあり此蟲は常に群をなして枝頭に簇集し茶葉を食す其蔓延するや實に火を以て燒くか如く之か經過したる跡にはまた一點の綠葉を見さるに至る他に移るへき園なき時は根皮を食して枯凋せしめ終に地に下りて蠢動す若し之に昵近すれは忽ち蟲毎に觸れ面部橙皮の如く浮腫し眼瞎閉塞痛痒に苦むものなり又山茶花に登り其葉を食ひ甚しきは田疇に移り稻葉を食ひ或は其葉を卷き遂に枯死せしむ後蝶に化し卵を附着し翌年に至り復た蛸蜥となる

之を驅除するには山野に自生せる苦參を取り其根莖を併せて細剉し水に浸す事兩三日之に新たに燒きたる石灰及草木灰を投入して篩或は杉の葉等にて之を灌くへし○石油八合石灰五升海鹽五合を混し之に煙草莖煎汁一斗冷水一斗二升を

加へたるものを灌くへし或は硫黄三百六十目石灰三百六十目水一斗五升を混し三分一に煎熬し此七匁八才を水一斗二升五合に和し水銃を用ゐて灌くへし爾後時々其茶園を巡視し蛺蝶の飛揚するを見は直ちに之を撲殺し又其卵及蛹を見は直に之を壓潰すへし凡そ蝶類の卵を産附するや常に空氣日光の流通不良の所に於てす故に枯枝の如きは悉く剪去し又樹邊の雜草を芟除し勉めて空氣日光の通徹を助くへし若し毛蛾に觸れて螫傷せらるゝ時は水銀膏或はテレビン油を外用すへし又は濃厚なる烟草の浸液灰汁或は鹽を塗抹するも亦可なり

○蚜蟲 半翅類

蚜蟲は半翅部中の一種にして黑色綠色赭色及淡綠色等あり雄は皆羽あり雌は羽あるあり羽なきあり間〻白綿狀の如きものを被むるものあり共に胎生卵生の二樣あり此蟲は夏季中絶て交尾せす秋季に至て生せしもの始めて交尾して葉芽及ひ皮間等に卵子を放ち依然冬季を經過す而して其卵子は翌春に至りて孵化し喙

を以て新葉の心髄を刺傷し其養液を吸奪し以て其葉を捲縮ず而て其葉背にありて風雨寒暑を防き以て蕃息す大氣濕ひ且つ熱する時は此蟲を增殖す又電氣は之を一時に發生せしむる者とす雌は一回交接すれは其感動子孫に及ふ故に其子孫は一歳中交尾せすして胎生の子を放産す而て此蟲は薄膜を被りて生すれ共直ちに其膜を破て蠢動するものなり春季に孵化せしものは一毋蟲にして十五日乃至二十日の間に毎日二個の子蟲を産し數日ならすして幾億萬の始祖となるに至る其蕃殖の速かなる實に驚くへく怖るへし若し瓢蟲蜂類及ひ巧婦鳥等の如きこの蟲の讐敵ありて除かすんは滿地の植物は悉く之か爲めに滅絶するに至らん之を驅除するには煙草莖六十目を水二升五合に煎出したるもの或は石灰汁を灌けは蚜蟲を殺すへし或は炭酸銅俗花綠青八匁小麥粉七十二匁を調和し朝露の乾かさる間に葉幹に撒布すへし生石灰百匁細末硫黄五十匁を桶に入れ熱湯八升を注加し直に密封して放冷せしめ稈莖或は水銃の類を用ゐて灌澆するも亦可なり製し

て數日を經は効力を失ふ宜しく密封し置くへし

以上數種の藥汁を用ゐて驅除法を施すと雖共此蟲を剿絶する事甚た難し故に葉の卷縮せる者を見は直ちに蚜蟲を拾ひ集めて壓殺すへし

○椿象　半翅類

椿象は方言ガソ國崩へッピリ蟲抔と云ふ其色黑、綠或は褐色なるあり身躰扁平にして頭の下端に喙を具ふ性甚た強健にして穀類を害し其津液を吸收し又果實を朝夕は葉裏に潛み又日中は葉頭に上り或は雨天に葉上に昇り晴日に潛伏する者あり稻葉に粟粒樣の卵子を産着し漸時に孵化して秋季に及へり此蟲は後脚の中間に二つの氣孔ありて是より奇臭を放つ其氣極めて刺戟の性ありもし誤て此氣眼中に入れは人をして甚しき煩衝を起さしむ試みに之を捕へて皮膚上に其氣を放たしむれは青色もしくは褐色の痕點を遺し洗滌すれ共容易に消滅する事難し

椿象一種

丁數	行數	誤	正
三	七	○蟲○毎	○毒○メ
六	五	方言ガソ	
仝	七	（果實と）ノ下害○○すノ二字ヲ脫ス	

之を驅除するには藁稈を束ねて筆の如きものを作り此を石油に浸し稲株中及其他の栖息せる所に灌くときは該蟲恍惚として醉へるか如く三四時にして斃死す只稲葉を害せさるを得す

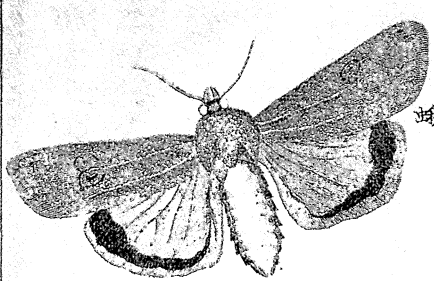
○螟蛉　鱗翅類

螟蛉に數種あり大小亦一ならすと雖も稲田に生するものは大概二三分より六七分の間にあり形狀稍尺蠖に似て全身綠色なり稲葉の表裏に附着し根際三四寸を餘して蝕盡し稲草終に枯死す之を驅除するには魚油（鯨油を最すこし も佳とす）少許を田面に撒布し篠竹或は草箒を以て稲葉を摩擦すれは蟲墮落して油に觸れて死す然れ共魚油は新秧の成育に害なきを免かれされは其水上に落るものを拾ひ笊に入れて撲殺するを良とす或は石油を以て魚油に代ふるものあり然れ共油氣稀薄なる時は其功少なしと云ふ駿州富士郡近村に於ては毎段毒荏油凡ろ八合を灌き油液流動して水色稍光澤を帶ふるを待ち竹竿を以て莖上を摩擦すれは蟲水面に墮落して忽

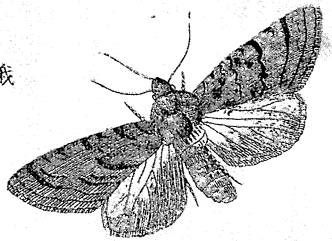
ち死すと云ふ

滋賀縣淺井郡にては螟蛉の爲に桑樹を害せらるゝ事甚しく無數の桑樹宛も枯木の如く一緑葉を見さるに至れり其蟲たるや八十八夜の頃桑芽豆大に膨脹せるとき孵化して穉毛樣の小蟲となり蕨芽を食盡して凡四五十日を經て樹上にて蝶となり或は草間に移りて蝶となり忽ち飛揚して桑の小枝に卵を附着す其狀黑膏を點するか如く爪にて壓潰すれは黃汁を出す此卵翌年に至て孵化するものなり夜間桑圃の周圍に於て火を焚き其蝶を誘殺すれ共其飛に當ては既に幾多の卵を產附したる後にあるを以其効著しからす故に未また孵化せさる前其卵を壓潰するか或は既に孵化して其害避け難しと知る時は桑芽を盡く指斷するを良とすと云へり蕪菁、蘿蔔、甘藍等の蔬菜類に生するものあり冬期に及ては壁及び杙等の間に潛伏し春暖を待て黃蝶及び白蝶となり蔬菜等の葉背に卵を放つ而して此種の螟蛉は甘藍の心葉を食ふへし總て此蝶類は一年間に化生する事春夏に二度とす

蜞蛉一種

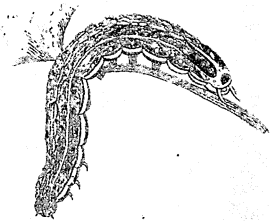


蛾

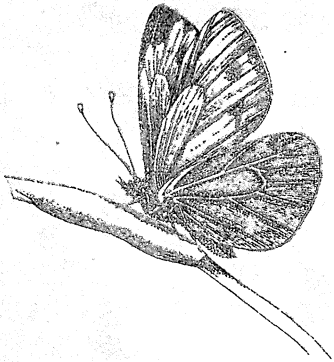


蛾

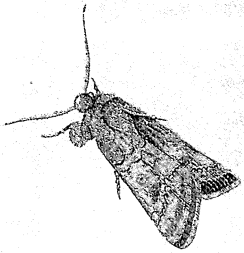
仝上蜞蛉



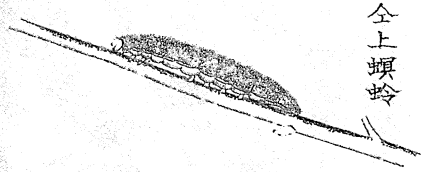
仝上蜞蛉



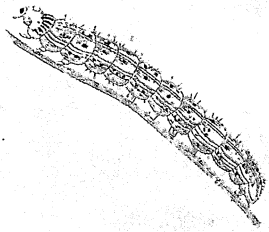
蝶



蛾



仝上蜞蛉



仝上蜞蛉

冬春の間宜しく其蛹を捜索して之を蹈殺すへし螟蛉となりたるものは勉めて之を拾ひ取り蝶となりたるものは網或は袋を以て捕獲すへし

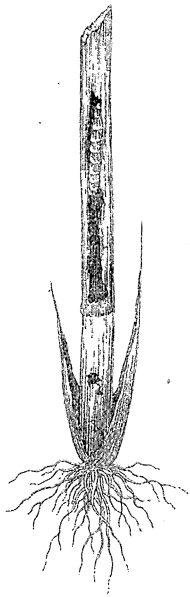
○螟蟲鱗翅類

螟蟲の孵化したるときは其大さ纔かに一分許に過きす頭大にして淡褐色を帯ひ淡黒斑あり或は葉上を跂行き或は口より細き絲を吐きて稲葉より垂下り風の力を藉りて他の稲株に移り其軟部を求めて莖心に蝕入るものなり既に其害を受けし部分は忽ち淡黄或は白色の斑點を現し遂に葉末より枯るゝものなり夫より十二三日を經て二三分に長し又十二三日を經て五六分許の裸蟲となり莖中を昇降す食盡る時は又他莖に移る其稲を害する事此時を以て最も盛なりとす其後更に生長して八分強に至れは忽ち變して蛹となり凡ろ十日を經て白翅の小蛾となる此蛾は夜陰に交尾して百顆内外の卵を稲葉に産付し尾の毛を抜きて之を被ふ此卵孵化して又莖心に蝕入る事地方によりて二回より三回に及ふ秋末に孵化した

る螟蟲は刈藁殘株等の中に蟄伏して嚴冬を凌き翌年五六月の候又蛾と化して卵を稻の稚苗に産付するものなり斯の如く連年循環して止ます是れ年を經るに從ひ其害益〻盛なる所以なり

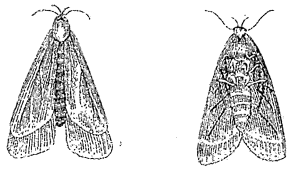
螟蟲の既に羽化したるを見は速かに箒の類を以て其畦畔に潛伏せるものを打殺し又一尺一二寸の羽子板樣のもの二枚を作り一枚の內面には鼻子のなき草鞋の如きものを付け徐かに苗間を搜索して蛾の飛揚する所を撲殺し又薄暮より十時頃まて其田邊に篝火或は燈火を點し之を燒殺すへし此法は收穫まて小蛾を認め次第幾度も施すへし又卵の産付しあるものは勿論葉端の萎黃したるもの或は黃點あるものは皆之を摘採りて燒捨へし心枯穗枯立枯等は見當り次第根共に地中に埋むるか或は燒き盡すへし其數甚た多き時は收穫後悉く其刈株を掘り採り之に石灰厩肥抔を混せ或は人糞油滓等を加へて堆肥となすへし是其殘株中に蟄居する蟲を燒殺す爲なり藁は被害の最甚き者より順次に燃料或は厩の敷藁に用ゐ

螟蟲



蛹

蛾



繩、莚、草鞋、俵等を造る分は遲くも二三月頃までに打軟けて貯置き播種後に焚くへき分は竈上等烟氣を被ふる所か又は密閉たる所に積置くへし此頃熊本縣下農片山源吉なるもの、螟蟲驅除は一段歩に付山茶花の油滓二斗に水九斗を加へて煎熬し置き而て稻田の水口を悉く塞きて水を洩へ右の煎汁を注流し之を攪拌し置く時は三日間を經て螟蟲悉く稻葉の表面に醉死すと云ふ

植物防疫資料館
C－508－4024
石倉秀次
寄贈

D
2-3
108